

【1】生ごみを肥料として活用する。→注目されている SDG s の話題に沿っている。

(参考文献より)

- ① 水分が多すぎると腐敗が進んでしまうため、肥料にする前にしっかり水分を抜かなければならない。つまり、生ごみを乾燥させなければならない。そこで水センサを使う。乾燥しすぎるのもいけないので、湿気センサで調整する。

- ② 各家庭で、ある程度生ごみが溜まってから、土にもっていき肥料にする。

→これは悪臭や虫の発生の原因になるため不可。生ごみが出た時点で肥料とすることがいい。

なので、生ごみ乾燥機（または、通気性のない密閉した入れ物）を建物ごとに1台用意して、そこに各家庭の生ごみを捨てていく。量を測るセンサで、肥料にまで使えるようになれば通知して、それらを農業に使う。また、各農業をしていない家庭も生ごみをその生ごみ乾燥機に捨てることで、費用を抑えられる。

- ③ 微生物が活発化すると、温度が上昇するので、温度センサを用いると、生ごみが分解されているか判断できる。

- ④ 水分として液体が出る、そのままにしておくと腐敗するので、水センサで一定の量になったら排出する。一回一回確認するのは悪臭がひどいため。

【2】各建物のソーラーパネルを使って、電気を部屋同士（建物同士だと電気を送れないため）で共有し合うシステム。

部屋の位置によって、日光の当たっている時間（強さも？）が違うので、日光が多く当たる場所で、ソーラーパネルを設置し、電気をためておく。1階や日光が当たらない場所で農業している所に、その電気を共有する。（逆も然り）

【3】海の中に建物を作って、その中で野菜を作る

実際は大規模ですべきだが、実験は小規模で行う。海は広く、栽培する土地を考えなくて済む。水中での、通信性能の評価。

【4】家の地下など壁ではなく、四方八方が地面の場合の通信性能の評価。

地下で検知した色々なセンサの値が、地上へ飛ばせるかどうかの安定的な通信ができるかの実験。これが安定的なら、野菜も栽培できるし、地震などの避難する場所に使える。

また、地下は湿気対策が必要になるので、湿気センサで調整するシステム。

参考文献

[<4D6963726F736F667420576F7264202D208AA3918794EC97BF89BB8AEE916287405F8CE393A188ED926A5F2E444F43> \(sakura.ne.jp\)](https://sakura.ne.jp/~4D6963726F736F667420576F7264202D208AA3918794EC97BF89BB8AEE916287405F8CE393A188ED926A5F2E444F43/)

[生ごみで肥料（ひりょう）を作ろう | 相模原市 \(city.sagamihara.kanagawa.jp\)](http://city.sagamihara.kanagawa.jp/)

[生ゴミでの堆肥の作り方 | コンポストとは？米ぬかで肥料に早変わり！ - HORTI 〜ホルティ〜 by GreenSnap](#)

[コンポストのデメリットを徹底解説！メリットだけを見たら失敗します \(boa-nation.com\)](http://boa-nation.com/)

BeyondStudio の進捗状況

- ・ JN-AN 1189 ・ JN-AN 1184 ・ JN-AN 1174 をダウンロードした。
- ・ JN-SW-4163 をインストールした。

↓下の画像は、ダウンロードした3つをインポートしたスクリーンショットである。

